

## 今、ここに生きてあるいのち

第1組善行寺 千葉 省

新年あけましておめでとうございます。

私たちは新しい年を迎えますと、互いに「おめでとう」と言って挨拶を交わします。

この「おめでとう」という言葉は、一般的には、誕生日を迎えた時、新入学の時、就職が決まった時、結婚の時などに使われます。

つまり、人生の節目において用いられる大切な言葉なのであります。

「おめでとう」という言葉を漢字では、「芽が出る」（お芽出度う）とも書きます。

それは、まさしく人生の節目において、自分自身に新しい芽が出たと言うこと、新しい芽を出すのだということを表すのでありましょう。

草花が芽を出すということは、種があれば勝手に芽が出るというものではありません。大地があり、水があり、お天道様てんとうさまの光があり、と様々なご縁があって、初めて芽を出すことが出来るのであります。同様に私たちも、様々なご縁をいただき、様々なご縁に支えられて、はじめて新しい芽を出すことが出来るのであります。

だからこそ、「おめでとう」と言葉をかけられますと、「ありがとう」というのでし

よう。

大切な芽を出すことが出来たのは、私一人の力によるものではなく、様々なご縁に支えられての事であり、よくよく考えてみれば本当に「あることの難<sup>かた</sup>い」事でしたと、こう感謝の念を持つことが出来るのでありましょう。

昨年来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、『これまで「当たり前」に思っていたことが「当たり前」には出来なくなった』と言われます。そうした中であって、

「当たり前」が「当たり前」に出来なくなったのではなく、「当たり前」と思っていたことが実は「当たり前」ではなく「あること難しい事実」であったのだと気づくことこそが大切なのではないのでしょうか。

身の回りのことを「当たり前」にしてしまう心からは、愚痴しか出てきません。

しかし、それが「当たり前」ではなかったのだ、「あること難しい」事実であったのだと気づいた時、「ありがたい」という感謝の念を持つことが出来るのではないのでしょうか。

この気づきが「今、ここに生きてあるいのち」への根源的な目覚めとなり、自分にいただいた新しい芽を大切に大切に育み、そして他と比べる必要のない自分だけの花を精一杯咲かせていくことの尊さに目覚めることが出来るのではないのでしょうか。